

令和 6 年度：第 1 1 回 西蒲区自治協議会 まちづくり・産業部会 会議概要

◆会議概要

- 名称：西蒲区自治協議会 令和 6 年度 第 1 1 回まちづくり・産業部会
- 日時：令和 7 年 2 月 2 7 日（木）午後 2 時 5 0 分～午後 4 時 1 0 分
- 場所：巻地区公民館 3 階 視聴覚室
- 出席委員：石田委員、上原委員、池浦委員、小林（ア）委員、野澤委員、
徳井委員、大橋委員、唐澤委員
以上 8 名（欠席：田中（妥）委員）
- 事務局：産業観光課長、地域総務課長補佐、同課主査
- 傍聴者：0 名

◆会議内容

第 1 0 期への引継書の作成について

- ・区自治協議会提案事業の事業評価書と第 1 0 期への引継書の案について意見交換を行いました。
- ・案のとおりとし、「にしかん応援隊の更なる活用について」を協議事項として 3 月の本会議で諮ることとしました。

「集まれ！地域のイベント自慢大会」代替事業

「江口歩様による地域のお悩みトークショー」について

- ・当日の役割分担や流れについて確認を行いました。
- ・当日、にしかん応援隊の PR ブースを作り、委員が試験的に PR を行うこととしました。

その他

なし

令和6年度：第12回 西蒲区自治協議会 まちづくり・産業部会 会議概要

◆会議概要

- 名称：西蒲区自治協議会 令和6年度 第12回まちづくり・産業部会
- 日時：令和7年3月1日（土）午後0時10分～午後0時20分
- 場所：巻文化会館 ホワイエ
- 出席委員：石田委員、上原委員、池浦委員、小林（ア）委員、
徳井委員、大橋委員
以上6名（欠席：田中（妥）委員、野澤委員、唐澤委員）
- 事務局：産業観光課長、地域総務課長補佐、同課主査
- 傍聴者：0名

◆会議内容

「地域のお悩みトークショー」事業評価について

- ・同日に実施したイベントの事業評価について、意見交換を行いました。

<主な意見>

- ・トークは盛り上がっていたと思ったのでよかった。
- ・地域を見つめ直すことの必要性などメッセージは伝わったのではないか。
- ・江口さんに、にしかん応援隊や地域について深掘りをしていただき、大変参考になった。
- ・やはり観客が少なかった。

その他

なし

第9期西蒲区自治協議会から第10期への引継書（まち産部会）

1. 提案事業の概要について

<p>令和5年度 「にしかん応援隊」（モデル実施）</p>	<p>令和6年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「にしかんライフフェス田」（3部会合同） ・「にしかん応援隊」 ・「集まれ！地域のイベント自慢大会」
<p>地域のイベントや祭りにおける担い手・運営スタッフの人手不足の解消と、地域内外の交流促進を目的として、「にしかん応援隊（ボランティア制度）」を制度設計。 （カモねぎまつりでモデル実施）</p>	<p>【にしかんライフフェス田】 部会ごとにテーマを設定し、来場者へ「学べる・体験できる」ブースなどを設置した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ【地域を知ろう！（西蒲区のものづくり、自然、郷土芸能）】 ・出店ブース：食のブース（区内の各地域の割烹、料亭の弁当販売など）、竹のおもちゃ遊び体験、米のはかり当て・柿の詰め放題
	<p>【にしかん応援隊】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「にしかん応援隊」制度スタート。 ・また、制度のPRイベントとして、地域のイベント自慢大会を開催。新潟お笑い集団 NAMARA 代表の江口歩氏を総合司会として、各コミ協より地域のイベントの紹介や悩みの共有と、にしかん応援隊の活用を周知。 <p>→大雪のため、内容を変更し「江口様による地域のお悩みトークショー」として実施。江口氏と当部会の委員とで地域の悩みを共有し、制度をPRした。</p>

2. 提案事業の実施による効果について

<p>令和5年度 「にしかん応援隊」(モデル実施)</p>	<p>令和6年度 ・「にしかんライフフェス田」 ・「にしかん応援隊」 ・「集まれ！地域のイベント自慢大会」</p>
<p>カモねぎまつりでモデル実施し、課題などを整理し、制度設計を行った。</p>	<p>【にしかんライフフェス田】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特産品の柿や地域の料亭、割烹や B 級グルメなど、地域の食を知る機会を作ることができた。 ・子どもたちに竹のおもちゃ遊びを体験してもらい、地域にある竹にふれる機会を作ることができた。 <p>【にしかん応援隊】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・応援隊をきっかけとして、普段訪れない地域へ訪問し、知ることができた。 ・運営側として参加することで、普通にイベントに参加するよりも、より深くイベントや地域の魅力を知ることができ、地域の魅力を伝える大切な取り組みと感じた。 ・応援隊の募集を通じて地域のイベントを伝えることができた。 ・地域間交流、イベントの PR につながった。 ・応援隊のアンケートにより、運営側へのアドバイスがもらえた。 ・地域が「手伝ってほしい」と声を上げて、受入体制を整えるという動きにつながった。 <p>【集まれ！地域のイベント自慢大会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大雪のため中止となったが、別日に内容を変更して、にしかん応援隊の制度を PR した。 ・各コミ協が発表予定だったイベント紹介の資料は市 HP に掲載するとともに、各コミ協へ配付し、内部の研修等で活用いただくようお願いした。

3. どのような課題が残っているのか

<知名度不足>

- 徐々に浸透してきてはいると思うが、まだまだPR不足。
- そもそも、地域の中でイベントに興味がない、手伝いたくない人たちもいる。そういう人たちへアプローチをどうするか。
- そもそも地域のイベントに興味を持つ人が少なくなったのでは。
- 募集团体側も応援隊を募集している旨の周知が必要。ただし、コミ協としてはSNSでの周知に慣れていないので、怖いし、使いこなせない。
- 応援隊の制度の目的が伝わりきっていない。

<応募が少ない>

- 募集をしても応援隊の人数が集まらない（応募が少ない）。
- 募集シートの書き方、情報が少ない（従事内容、集合場所、駐車場など）。そのため、応募にあたり不安があるのでは。不安の解消が必要。

<募集側の悩み>

- 募集側としてはどれだけ人数が集まるか分からないので不安。計画も立てづらい。
- 受入団体もイベント時は忙しく、また人手不足もあり、なかなか来てくれた応援隊の人たちの面倒を見る時間がない。

4. 実施してきた取組を次のステージに進めるためにはどのような取組が必要なのか

<知名度不足>

- まずは地域の人たちが自分の地域のイベントに応募してもらえるように、コミ協などが地域のイベントのチラシやポスターなどに積極的に応援隊の募集情報を載せてくれるように働きかける。
- 募集側にも積極的に活用いただけるよう働きかける。広報の継続（強化）をしていく必要がある。（マスコミや広報媒体での周知などの検討）
- イベントの際に応援隊のPRブースを作ってPRを行ってはどうか。

<応募が少ない>

- 応援隊の参加メリットや実際参加すると楽しかったという声を届け、PRする。（自治協広報誌に参加した人の声（よかったことなど）を載せるなど）
- 応募の不安を取り除く工夫を行う。（募集シートの内容の充実、募集イベントの年間スケジュールを作成してHP、SNSなどで周知する、など）
- 参加メリットとしての特典付与は一過性のものであるので、祭りやイベントなどがそもそも何のためにやっているのか、意義や想いを今一度掘り起こして地域の若者などへ伝えることも必要では。

<募集側の悩み>

- コミ協など募集側をターゲットとして絞り、地域づくりに関するコンパクトなセミナーなどを開催し、併せて応援隊の目的や必要性、募集の仕方などを伝える。

まちづくり・産業部会提案に基づく協議事項

各常任部会にて、全体会で協議したいテーマについて検討していただきました。
結論を出すことを目的にしていませんので、積極的にご発言いただければ幸いです。

表題・テーマ	「にしかん応援隊の更なる活用」について
内 容	<p>まちづくり・産業部会では、各地域の共通の課題である「地域の担い手不足」に着目し、地域のイベントや祭りにおける担い手・運営スタッフの人手不足の解消と、地域内外の交流促進を目的として、「にしかん応援隊（ボランティア制度）」を制度設計した。</p> <p>部会内で提案事業の効果・課題を協議する中で、にしかん応援隊の情報が応募側に届いていないことと、募集側の不慣れにより、応募と募集のマッチングがうまくいかず、活用数が少ないことが課題として挙げた。</p> <p>活用数を増やし、応援隊の目的である「人と人との交流を深め、地域の担い手や後継者の発掘につなげる」ためにも、応募側、募集側に本制度の目的や情報を届け、双方をうまくマッチングさせることで、地域の課題解決に向けたきっかけづくりとしたい。</p> <p>本制度の更なる活用に向け、次の事項について意見を伺いたい。</p> <p>①応募側への周知</p> <p>→募集情報が区民に届いていないので、地域のイベントのチラシやポスターなどに積極的に応援隊の募集情報を載せてくれるよう、コミ協などへ働きかける。</p> <p>②募集側への働きかけ</p> <p>→コミ協など募集側をターゲットとして絞り、地域づくりに関するコンパクトなセミナーなどを開催し、併せて応援隊の目的や必要性、募集の仕方などを伝える。</p> <p>(例:「地域の人の動かし方講座」「人とのつながり方講座」「持続的かつ効率的なイベントの開催講座」など)</p>